

月報アルバム

SAM 夏期研究会

(本文 289 頁参照)



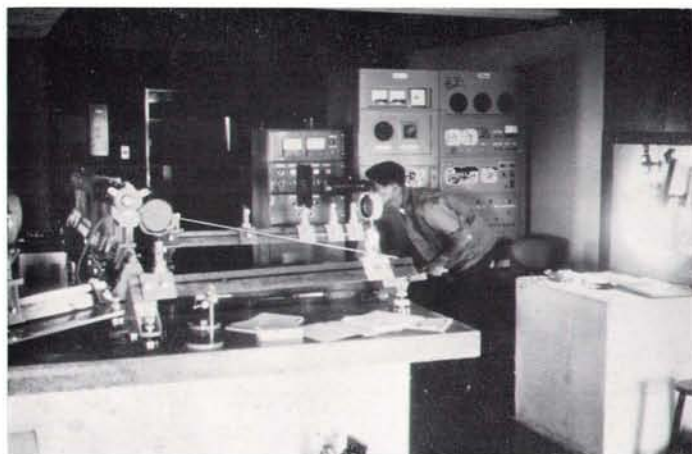
(上) 会場前での記念撮影.

(右) 鍋木政岐先生の閉会の挨拶.



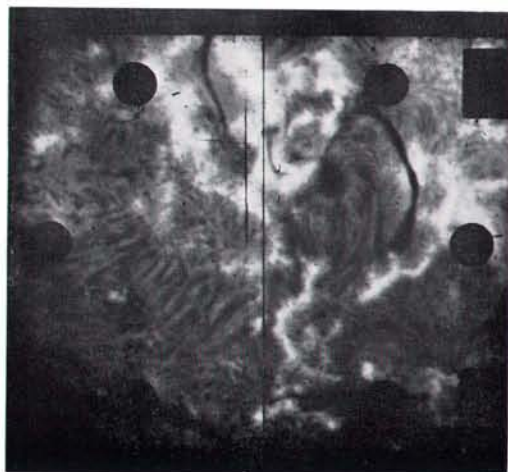
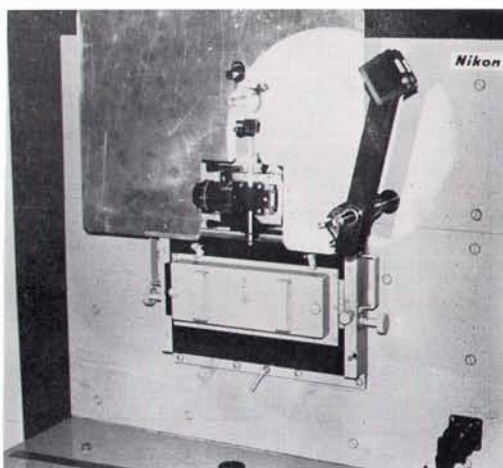
(左) 宿舎の一つ (右後方の建物) から会場に向う参加者 (左より堀, 大木, 下田の諸氏).

クーデ型太陽望遠鏡 (I)



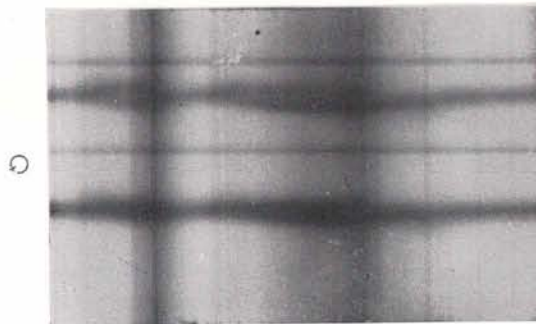
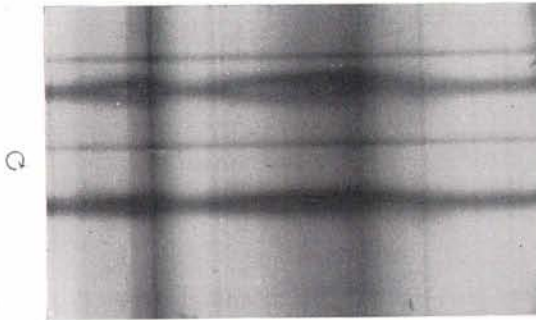
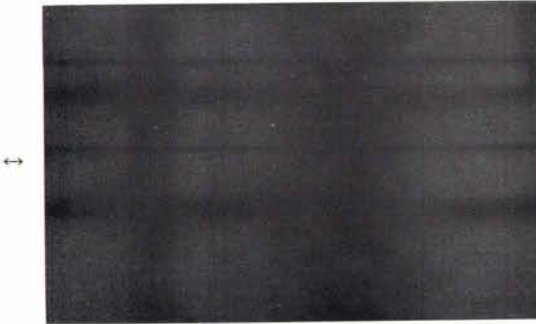
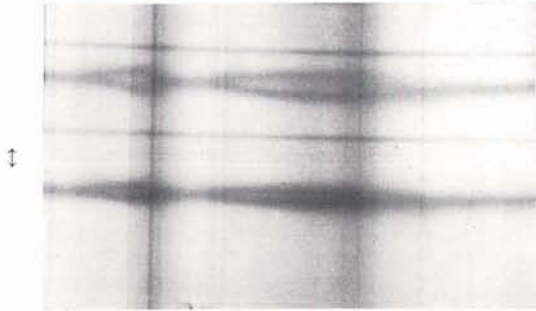
単色案内装置でスリット上の太陽を観察する。人物背後のラックは左からドーム回転用、望遠鏡駆動用、分光器制御用である。

スリット部。スリットのマスクは縦に細長い2枚の板でそれぞれ上下に移動する。スリットの下にはグレーティング分光器用のプレートホルダが見える。



スリット刃の反射で見た太陽の $H\alpha$ 像。太陽黒点とそれを含む活動領域が写っている。一番細かい模様は角度で2秒くらい。

クーデ型太陽望遠鏡 (II)



太陽黒点のゼーマン効果

太陽黒点(上)の示すゼーマンスペクトル(左). スリット上の太陽像の写真からスペクトルが黒点のどの部分に対応するかがわかる. 黒いスリットのほかにスリット刃の上に沢山のキズが見られるが, 現在は完全な刃に交換されている. スペクトルでは $\lambda 6303$ の鉄の線—2本の細い地球大気の吸収線にはさまれている—に注目されたい. 直線偏光で二成分の明るさが違うのは光学系による偏光がかなり大きいことを示している. この吸収線の見え方から黒点磁場ベクトルの二次元分布がわかるはずである.